

学界の動向

第 41 回日本人工関節学会 – 弛むことのない人工関節への夢 –

松野 丈夫*

平成 23 年 2 月 25 日、26 日の両日、東京のグランドプリンスホテル赤坂（旧赤坂プリンスホテル、通称赤プリ）において第 41 回日本人工関節学会を開催させていただきました。本学会は開催時期が 2 月という真冬の時期であることと参加人数が 2000 名近くになるということから、参加者の交通の利便性や立地条件などを考慮して旭川の地ではなく東京で開催させていただきました。日本人工関節学会は今回で 41 回目を迎える我が国の整形外科領域においても伝統ある学術集会であり、年々会員数と参加人数が増加している活発な学会です。私ども旭川医科大学整形外科学教室にとって非常に光栄なことであり、学会 1 年前の平成 22 年春から教室、同門会一丸となって準備にとりかかりました。準備中に赤プリの関係者から連絡があり、会場に予定していた赤プリが平成 23 年 3 月末で閉館になると聞いた時には寝耳に水の話に驚くとともに、かろうじて学会開催の約 1 ヶ月後の閉館とのことで胸をなで下ろしました（図-1）。後日談になりますが、

結果的に赤プリの閉館ということが「閉館前に一度赤プリを見てみよう」というある意味での目玉となり、例年より多い 2000 名近い参加者と 869 題の演題が集まりました。

学会のテーマは「弛むことのない人工関節への夢」としました。我が国において末期関節症に対して人工（股）関節が導入されたのは約 40 年前のことです。当時は人工関節の長所である疼痛の軽減や QOL 上の機能回復のみが強調され、人工関節が将来的に弛みを来すという概念はありませんでした。しかし人工股関節の行われた患者が術後 5 - 10 年で次々と弛みを来したことから、弛みの原因究明のためにその後多くの基礎的、臨床的研究がなされ、現在ではその原因が主として関節摺動面より生じるポリエチレン摩耗粉であることが判明しています。

的確且つ正確なコンポーネントの設置さえ行えば、現在の人工関節は 25 - 30 年の耐久性が期待されます。しかし一方においては、術後感染の問題、人工関節の手術件数が増加することに伴う膨大な医療費増加の問題など、人工関節を巡る新たな問題も多数発生しております。このような状況を踏まえておよそ 1 年間にわたり本学会のプログラム編成を行い、赤プリ内に 9 会場を使用して、8 題の特別講演・教育講演・招待講演、7 題のシンポジウム、12 題のパネルディスカッション、2 題のビデオセッションを行いました（表-1）。その他ラベンダーセミナーと冠したランチオン・イブニングセミナーが 14 題行われました（図-2A、B）。その他展示会場においても多くの医療メーカーが最新の人工関節の紹介展示などを行い、多くの参加者が各社の展示に見入っていました（図-3）。



図-1 グランドプリンスホテル赤坂（赤プリ）全景

*旭川医科大学 整形外科学講座

表-1 学会における各種演題（特別講演・教育講演・招待講演、シンポジウム、パネルディスカッション）

特別講演・招待講演・教育講演

1. 中谷祐貴子：人工関節材料に関する薬事承認及び保険適用の迅速化への取り組み
2. 西脇祐司：臨床研究のすすめ－疫学・統計のミニマムエッセンス－
3. 寺山和雄：体験：胎児股関節から人工股関節再置換術まで
4. Alan L. Schiller：Pathogenesis of OA
5. A. Seth Greenwald：Contact stress and kinematics in TKA
6. William J Maloney：Update on bearing surface in THA
7. 柴田陽三：人工肩関節置換術の手技の要点と落とし穴
8. Stanley M. Leitzes：The history of arthroplasty in Boston

シンポジウム

1. 人工関節と医療経済を考える
2. 臨床からのアイデアを具現化するための国家戦略と産学連携
3. 整形外科手術における3D（立体）映像の有用性について
4. THA 周囲オステオライシス－過去、現在、未来－
5. 人工膝関節置換術後の動態・動作解析
6. TKA フィルムレス術前計画について
7. TKA における至適ギャップとバランス

パネルディスカッション

1. 膝蓋骨置換の是非
2. 外反膝に対する TKA/HTO からの conversion TKA
3. UKA の成績と諸問題
4. 両側同時（日）TKA の工夫と問題点
5. THA 各種セメント使用システムのコンセプトと成績
6. THA 各種セメントレスシステムのコンセプトと成績
7. THA 各摺動面の有用性と問題点
8. MIS THA の展望
9. THA 再置換術（大腿骨側）における各術式の利点・欠点
10. THA 再置換術（臼蓋側）における各術式の利点・欠点
11. 静脈血栓塞栓症対策
12. 手術部位感染に対する治療法の工夫

これらの中から主なものを紹介いたします。

・教育講演「人工関節材料に関する薬事承認及び保険適用の迅速化への取り組み（厚生労働省 社会・援護局障害保険福祉部 精神・障害保健課 中谷祐貴子）」（図-4A）：我が国における人工関節開発においては薬事承認や保険適用に非常に時間がかかることが以前より大きな問題になっておりました。この問題について本学の卒業生（平成11年卒）であり、この方面に



図-2A 会長挨拶



図-2B 会場風景



図-3 展示会場風景

非常に造詣の深い厚生労働省の中谷先生に講演をいただきました（図-4B）。先生の講演から今後の人工関節領域における薬事承認に対して一筋の明るい見通しが見いだされたと確信しました。また関連シンポジウムとして「人工関節と医療経済を考える」、「臨床からのアイデアを具現化するための国家戦略と産学連



図-4A 教育講演「人工関節材料に関する薬事承認及び保険適用の迅速化への取り組み」



図-5A シンポジウム「整形外科手術における3D（立体）映像の有用性について」



図-4B 中谷祐貴子先生



図-5B 3Dメガネをつけた会長（左）

携」が行われました。今後の我が国における人工関節のより良い発展のためには個々の医者の技術向上はもとより、産学協同によるより質の高い人工関節の開発と国（厚生労働省）による早期の薬事承認等々が喫緊の課題だと言うことが認識されました。

・シンポジウム「整形外科手術における3D（立体）映像の有用性について」

この数年間劇場映画やテレビビデオの分野で3D映像が話題を集めています。その3D映像の人工関節分野の手術への応用についての発表がなされ、スクリーンに映し出される人工関節手術の迫力ある3D映像は多くの参加者の興味を引いた様でした（図-5A,B）。この手術の3D画像は展示会場においてもテレビ画面で観ることが可能であり、多くの参加者がシンポジウム後に展示会場に集まり3D画像を楽しんでおりました。

・その他人工関節の基礎的分野から実際の手術における問題点まで幅広い分野における発表・討論がなされ、参加者が多数であったこともあり大いに盛り上がった学会となりました。

学会には真剣な発表・激論が必須ですが、やはり「遊び心」も必要と考え、学会抄録集の表紙を以前より旭川医大病院の看護部作成のノートなどのデザインをお願いしているイラストレーターのKaoriさんにお願ひしました。「うたう街」と題したイラストで学会を開催した東京（赤坂）の街を温かく表現していただきました（図-6）。

また学会前日の会長小宴は東京らしさを出すために都内南青山のジャズライブレストラン「ブルーノート」で行い、以前からの友人で現在ニューヨーク在住の大江千里さんに無理をお願いして来ていただき、素晴らしいジャズセッションを行っていただきました（図-

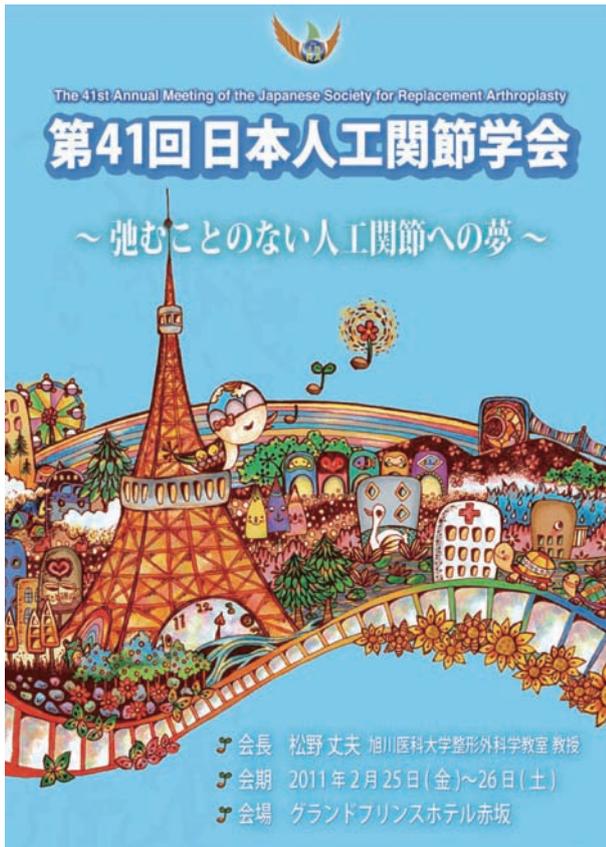


図-6 学会抄録集 (イラストデザイン by Kaori)

7)。セッションの最後には参加者の中から大学時代に大学のジャズクラブに属していた先生の飛び入り参加もあり、大いに盛り上がりました。

学会1日目の夕方には赤プリ内で全員懇親会を行い、立食パーティーで参加者の皆様に懇親を深めていただきました。その際には旭川東高校出身のダンサーである Megumi さんとそのお仲間在空中に垂らした布を使って空中でダンスを行う「エアリアル」ショーを行っていただき、参加者の目を楽しませていただきました(図-8)。



図-7 会長小宴 (大江千里トリオのジャズライブ)



図-8 全員懇親会 (エアリアルショー by Megumi)

このように2日間の学会において、昼は真剣な発表・討論を行っていただき、夜はリラックスした小宴や懇親会で楽しんでいただくとともに、参加者の皆様には赤プリの最後の姿もじっくりと内から外から見ていただけたことと思います。

以上今年の2月に東京で開催させていただいた「第41回日本人工関節学会」の概要を紹介いたしました。